



たぐすい

TAKUSUI

1998 SEPTEMBER No.503

9

●ズーム●

第24回豊漁祈願祭を開催！

COLUMN

川の流れと…

◆川の流れを辿り上流へ溯ってみようと思っただけ。小さな旅である。海に近い河口付近は川幅も広く、ゆったりとしている。葦原のワンドにトビハゼを追った日を思い出す。土堤に上がれば静かな拡がりがある。春にツクシが群生しアマナの白い花が点々と咲く。山間(やまあい)に生まれ、一滴の水が、長い旅程の末に海へと流れ入るのである。上流からの差分を含んだ水は、しばらくは塩水に逆らい混じり入ることなく真水の層を作るといふ。川の終着駅である。

◆下流で目につくのが、岸辺の木に絡みついたビニール類。その白さは遠くからでも判り小鳥が止まっているのかと思つ。心ない人の行

為が川岸に恥を晒している。ゴミが文化を測るバロメーターならば、それが作り出す、この眺めを文化的風景と感ぜなければならぬ。これほど恥づ晒しな風景はあき止められた所に来た。川の閉所だ。ここでも人間の生活が出す様々な残渣(さんざん)がコンクリートに絡んでいる。

◆無数のゴミの山に何とも情けない気持ちになって、中流を飛ばし一足飛びに山間に入った。上流から分割されて流れが細くなる。それは草々を育み、きれいな夢のような音を立てている。カワセミが飛びトビ小鳥が群れ、流れはキラキラと輝き小さな水車を回している。川の中にはメダカの姿があった。

以前には、もっと大がかりな水車が回って生活の一部になっていた。川から汲みあげた水は田へ配分される。土地の高低をうまく使った水路が、どの田にも満遍なく水を運び入れている。川筋を中心に人々の生活の場が形成される。「流域」とはその川に流れ入る全ての水が作り出す区域だから、身体を取り巻く毛細血管のような広がりを見せる。川と人の暮らしの緻密な関わりから、川の流れはしばしば人生に譬えられるが、流れを辿ることで、それを強く感じた。川と海と人の繋がりが理解できれば流域を美しく保ちたいという気持ちは培われるだろう。下流の汚れた姿を大勢の人に知って貰いたい。(遊方子)

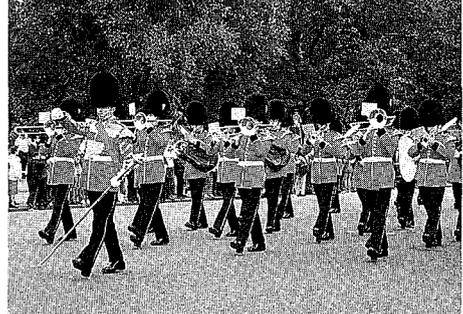
拓水 SEPTEMBER CONTENTS

COLUMN	川の流れと…	2
特集	淡路・海のフェスタ'98 開催! ～淡路地区漁協青壮年部連合会～	3
ズーム	第24回豊漁祈願祭を開催! ～マダイ・ヒラメなど稚魚11,000尾余を放流～	4
TOPICS	第13回兵庫県漁業協同組合長懇談会を開催!	5
インフォメーション	兵庫県知事選挙の投票日は10月25日(日)	6
季節の香	アキアカネ/秋茜	
水試ノート	サザエの産卵誘発と採卵	7
栽培漁業センターです		8
海区漁業調整委員会だより 普及員だより	マダイを元気に育てるには	9
旬の美味しい話	あなごずし	10
兵庫JCC通信	広域合併構想実現に向けて 第76回国際協同組合デー・兵庫記念大会 「地域社会と環境への協同組合の役割」をテーマに	
巻末 essay	差別について考える	11
マリンバイオテクノロジー	第2話 地球に酸素をもたらしたのは誰か?	
こちら海ですロケだより	満喫!!家島の夏!! 底曳網観光に夏祭り ～兵庫県飾磨郡家島町より～	

「拓水」は漁協と漁協系統団体を結ぶコミュニケーションの場です。報知したいこと、文芸など。皆さんの投稿は大歓迎いたします。裏面の発行所「拓水係」宛送付ください。

今月の表紙

フォトギャラリー



表紙写真
西澤 範子さん
〈県漁連〉

フォト歳時記

隊列のある風景

きれいな隊列を組んで進んで来た、まるで玩具の兵隊さん。赤い制服と黒い帽子のコントラストが、緑の背景に映えて美しい。

行進曲が鳴りわたり、リズムに乗って、整然と進む隊列が目前を通過する。乱れない歩みが電気仕掛けの人形のようにも思えて来る。

大勢の見守る中を、作法通りに歩んで無事に交替式が終了、辺りは元の静けさに戻る。イギリスらしい広がりの中で、遠くに来ているという実感が湧いてくる。

淡路・海のフェスタ'98 開催!

～淡路地区漁協青壮年部連合会～

特集

洲本市炬口海水浴場にて!

去る八月八日(土)、

淡路地区漁協青壮年部連合会が主催する

「淡路・海のフェスタ'98」が、洲本市炬口海水浴場において開催されました。当日は、天候にも恵まれ照りつける真夏の太陽の下、淡路地区

漁青連会員約五十名と島内外の独身女性約七十名が炬口海水浴場に集いました。

開会に当たり、淡路地区漁青連の成瀬会

長が挨拶、続いて来賓の方々を代表して洲本市の中川市長、炬口住民会の西村会長よりご挨拶を頂きました。

さて、内容ですがバーベキューでは肉・

野菜の他、由良町漁業協同組合連合会より提供していただいたサザエやアワビ・淡路各漁協青壮年部より持ち寄られた獲れたて

の魚介類が振る舞われました。

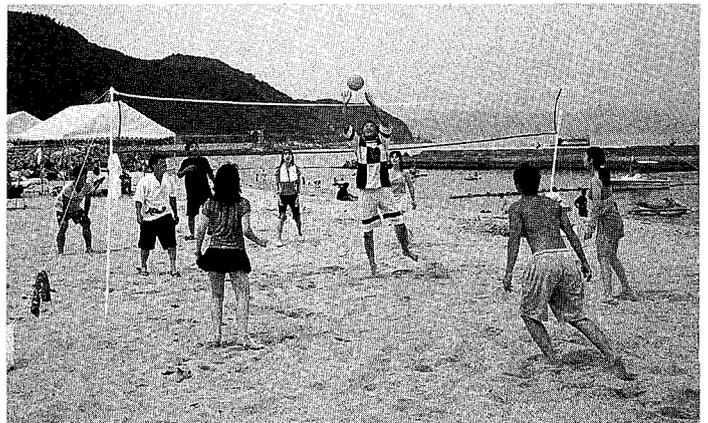
女性参加者にとっては、めったに口にするこの出来ない食材



炬口海水浴場に集う!



ビニールボート・マリッジットで遊ぶ



熱のこもるビーチバレー

で、舌鼓を打ちながらの会話に花が咲きました。

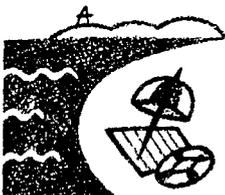
また、当日は十台近いマリッジットの他、バナナボートやモーターボートが用意され試乗待ちの列が出来るほど女性参加者の人気をさらっていました。水着を用意してくる女性参加者も多く、男性参加者(スタッフも)の目を楽しませてくれました。その他ビーチバレーのコートやスイカ割・ビニールボート等も用意され、和気藹々とした雰囲気の中、参加者同士の交流は進みました。

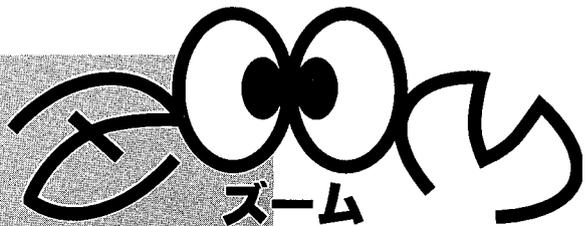
今年はいスクジョッキーによるBGMや、雑貨や小物を主体としたフリーマーケットの出店、ネイル(タトゥー)アートコー

ナーの設置などが花を添える形となり、例年になく華やかなフェスタとなりました。ところで、気になるこの日の結果ですが、スタッフの心配とは裏腹に、多くのカップルが誕生し炬口海水浴場を後にしました。過去このフェスタで知り合い、多くのカップルがゴールインしましたが、今年も一組でも多くの恋が実ってくれることを願ってやみません。



獲れたての魚介類でバーベキュー

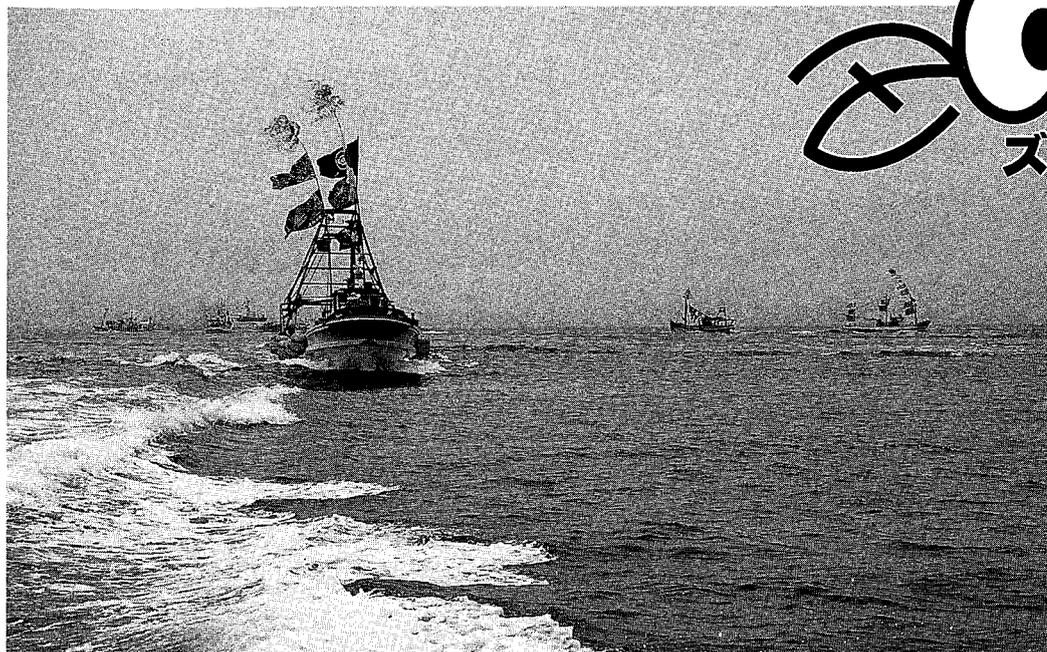




第二十四回 豊漁祈願祭を開催!

姫路市白浜町妻鹿漁港にて

くマダイ・ヒラメなど稚魚一万一千尾余を放流く



永遠の豊漁と漁業操業の安
金を祈願する豊漁祈願祭を
開催!



神事の様子

町妻鹿漁港において、貝原
県知事を始めとする多数の
来賓および県下各地から
漁業関係者四百余名の参
列を得て、盛大に開催さ
れました。行事は陸上と
海上の二部に分かれてお
り、午前十時陸上行事の
開式。松原八幡神社の宮
司による神事は、厳肅な
雰囲気の中で祝詞奏上に
始まり、小川県漁連会長
より祭詞が奏上され全員
が祈りを捧げました。順
位に従い玉串奉奠を行っ
て神事を終了。そのあと、

去る七月三十一日、県漁
連の主催より、第二十四回
豊漁祈願祭が、姫路市白浜

県漁連会長の挨拶、来賓の祝辞、祝電披
露と続きました。また、姫路市立灘中学
校生徒(約六十名)により吹奏楽が演奏



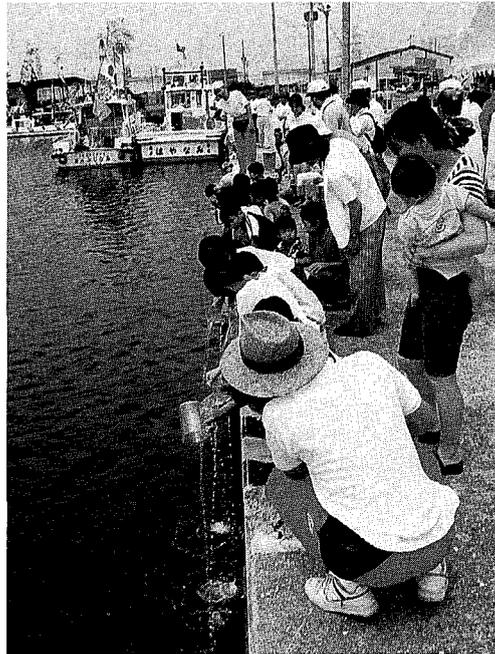
小川県漁連会長による放魚

され、炎天の会場に音高く響き渡り祈願祭
に華を添えました。
次に舞台を海上へ移し、県取締船「はや
たか」、水産庁漁業取締船「せとうち」お
よび県立水産試験場調査船「ひょうご・ち
どり」の四隻の放魚船に参加者が分乗し、
木場灯台沖約二キロの地点において海上神
事を行い、マダイ稚魚(体長約5cm)九千
尾、ヒラメ稚魚(体長約20cm)千尾やマ
ダイ成魚十尾などを放流したのち、県議
議員米沢先生の発声により、貴重な資源の
繁殖を念じて万歳三唱が行われました。協
賛の動員船三十隻が大漁旗を掲揚してのバ
レードは海上を華やかに彩り、豊漁への祈
りを盛り上げていきました。

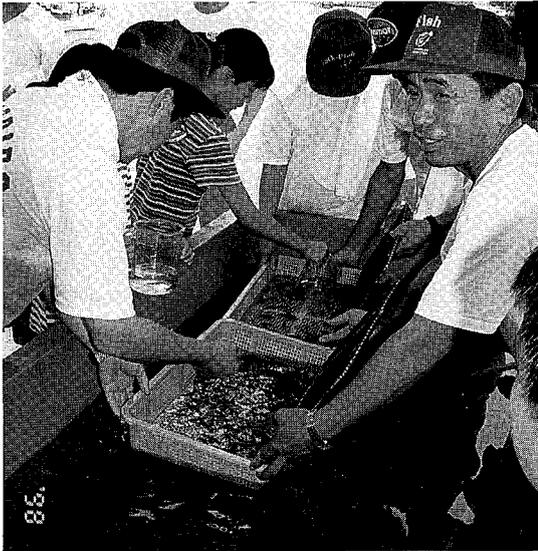
次代を担う子供たちに漁業資源の大切さを知って欲しい!

海上行事に並行して陸

上では、地元の白浜小学校の生徒（約百名）による岸壁放流が行われました。放流する稚魚は、明石市南二見にある栽培漁業センターで孵化したマダイ約千尾。朝早くこの地へ運ばれた稚魚は、岸壁に設置した水槽から子供たちが手にする容器に移され、次々に港の中へ放流されました。稚魚を目にするのは初めてという子供も多く、自分の手で放流した



小学生による放流



子供らの容器へ...

ことが、夏休みの貴重な体験になることと
思われます。

七月二十日が国民の祝日「海の日」となって本年度第三回目を迎えました。海への関心の高まりの中で執り行う、この豊漁祈願祭が「海の恵みへの感謝と海洋国としての繁栄」を、より広く理解する機会になればと思います。私たちは、国民蛋白食料供給の重要な担い手であるという自負と誇りをもって、漁業界のますますの発展を願い、但馬海域、瀬戸内海海域での、今後の豊漁と漁業操業の安全を祈念してやみません。

TOPICS

第十三回兵庫県漁業協同組合長懇談会を開催!

県漁連では、去る七月三十日（木）姫路市のホテルサンシャイン青山・平安の間において、第十三回兵庫県漁業協同組合長懇談会を開催しました。兵庫県下の漁業協同組合長等が一堂に会して、水産業界の懸案事項等について講師から話題提供を頂いて懇談し、組合運営の一助を図るといふものですが、本年は全国漁業協同組合連合会より沢村睦穂参事を講師として招き「九九〇一漁協の運動方針



挨拶をする小川県漁連会長



スライドを使つての細谷太郎氏の講話を聞く

について並びに漁業基本法について」の中間報告を頂き、二十一世紀の漁業は持続型・協調型・そして環境調和型でありたい等の話に、参加者からの質疑応答の場面も見られ大変有意義な懇談会となりました。

また特別講演には、旧海軍一等兵曹の細谷太郎氏による「戦艦大和における艦長とその部下」と題した講話を頂きました。かつての敗戦の記憶を甦らせる生々しい話に、参加者の受け止め方も様々だったようですが、艦長と部下のあり方などの話は有益であったのではないのでしょうか。真実は真実として受け止め、今後の本県水産業の危機管理の一助になるのではと思われました。

兵庫県知事選挙の投票日は 10月25日(日)



投票がしやすくなりました。
投票時間が2時間延長され、午後8時までとなりました。

投票日当日、仕事、買物、レジャーなどの予定がある方は、不在者投票をすることができます。
不在者投票の時間は午後8時までとなりました。

【不在者投票のできる期間】

10月8日(木)～10月24日(土)

【不在者投票のできる場所】

住所地や滞在地の市区町選挙管理委員会、入院中の病院など

【持参するもの】

・投票所入場券（なくても本人の確認ができれば投票することができます。）

※ 滞在地の市区町村選挙管理委員会で不在者投票をする場合は、あらかじめ投票用紙等を住所地（選挙人名簿登録地）の市区町選挙管理委員会に直接又は郵便で請求のうえ、送付（交付）された投票用紙を持参して不在者投票を行ってください。

詳しくは、住所地等の市区町選挙管理委員会へお問い合わせ下さい。



季	節
の	香



撮影：高尾 暁子さん（明石在住）

アキアカネ/秋茜

- ◆風に乗って如何にも楽しそうに飛ぶ姿が、秋の風情を一番に感じさせる。アカトンボというには少し淡い色ではあるが…。
- ◆夕暮れの空いっぱいに広がって盛んに求餌している。トンボの複眼は人の眼の何倍もの視力をもって、狙った餌は逃がさない。
- ◆童謡「赤とんぼ」を作詞した三木露風の見た風景は、もっと静かな環境だったろう。急激な変わりようで自然界に影響も…。（遊）

今回は、但馬栽培漁業センターで平成六年の開所以来、取り組んでいるサザエの種苗生産の中でも、産卵誘発と採卵の工程について紹介します。概要は図1に示すとおりです。

サザエの産卵盛期は一般に七月、八月頃とされていますが、飼育条件下では飼育水を加温することで採卵時期を早めることができます。但馬のセンターでも、五月上旬から二十度前後に加温

し、六月中旬には採卵を行っています。一回の採卵では、五十〜六十個の親

(殻高六十〜七十ミリ)を用いますが、外観から雌雄を判別することはできないので、一つの水槽に収容して産卵誘発を行います。どうしても雌雄を知りたい方は、殻を割って中身を取り出し、先端のら旋状の部分を見て下さい。産卵期であれば、卵巣は濃緑色、精巣は白色を呈しているため、容易に判別できます。

産卵誘発は図1にあるように、夜間止水と紫外線照射を組み合わせた方法がよく使われます。温度刺激も有効な方法で、夜間止水の間に室内を冷却し、水温を二、三度低下させることにより、さらに誘発効果を高めることができます。また、紫外線の照射量も重要なポイントで、通常は紫外線殺菌装置の処理能力に対して、十分の一度の流量に絞り込んで使用します。

紫外線照射海水の注水開始から数十分経過すると、図2に示したようにいずれ

の採卵回次でも、まず精子の放出(II放精)が起り、やや遅れて卵の放出(II放卵)が観察されます。この時間差を利用して、放精した個体を順次取り除き、別水槽に移します。図3には精子濃度と受精率の関係を示しましたが、サザエの場合是一个の卵に対して十個未満の精子であっても、九十パーセント以上の高い受精率が得られます。逆に精子が多過ぎると、卵膜の溶解や発生異常を引き起こすだけでなく、後述の卵の洗浄作業にも多くの時間を費やすことから、放精個体を取り除くことは大切な作業になります。余談ですが、精子の放出はタバコや煙突の煙のように緩やかに行われます。

一方、卵の放出は殻を激しく開閉し、間欠泉のように行われるので、不用意に水槽を覗き込んだりしていると、顔や衣服にかかるともありません。

放出された卵は排水管を倒し、ネットで受けて回収します。このことで産卵水槽の水位が上下し、より活発に放卵するようになります。回収した卵は小型の角形水槽に収容し、放精個体を移した水槽から精子の懸濁した海水を採取し、人工受精を行います。添加する精子の量は、十個体以上の親が放精している場合、一ミリリットルあれば十分です。

受精後は、余分な精子を取り除くために卵の洗浄を行います。この作業は卵が海水に対して沈む性質を利用したもので、受精後三十分放置しておくと、卵は水槽の底面に沈殿するようになります。この時、水槽を傾斜させて上澄みを捨て、捨

兵庫県立水産試験場増殖部

主任研究員 岡本 繁 好

サザエの産卵誘発と採卵

てた分だけを新たに補充します。この操作を二〜三回繰り返して、全ての作業は終了です。

以上が、サザエの産卵誘発と採卵工程の概要ですが、このようにして得られた受精卵は採苗、平板飼育、網生質飼育という工程を経て、翌年の五月には殻高七十ミリ前後の稚貝になり、放流用種苗として県内各地に配布されます。センター開所当時に生産した種苗はそろそろ漁獲サイズに達する頃ですので、より多くの種苗が水揚げされることを期待しています。

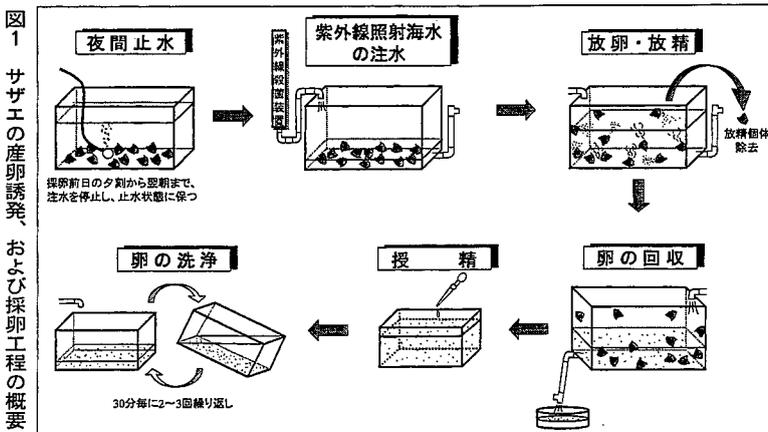


図1 サザエの産卵誘発、および採卵工程の概要

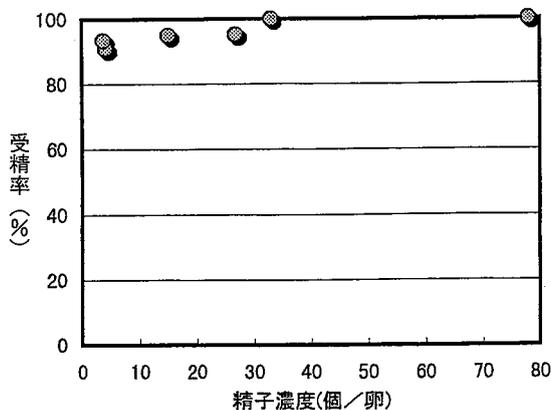


図3 精子濃度と受精率の関係

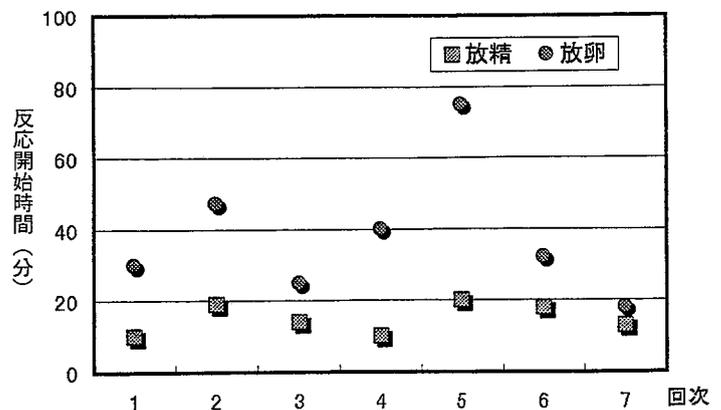
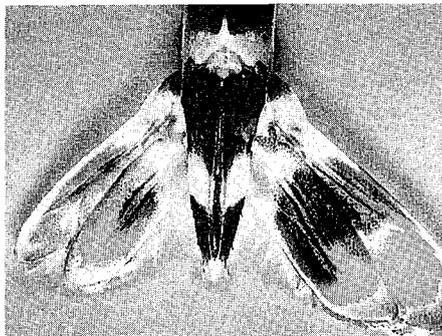


図2 採卵回次別の放卵・放精開始時間

八月に入りようやく梅雨が明け、今年
は気象庁の観測史上最も長い梅雨を記録
しました。

ところで皆さん、クルマエビの尾扇
(しっぽ)にある鮮やかな青と黄色のコ
ントラスト模様をご存じでしょうか?エ
ビ類の多くは外敵に襲われたりして脚や
尾扇が無くなっても脱皮を繰り返すこと
でその部分を再生する事ができます。し
かし形は再生できてもその模様までは修
復されないのです。今回はその特徴を利
用して、七月中旬に瀬戸内海東部の各関
係機関合同のもと赤穂事業場で行われ
た「クルマエビ放流資源共同管理型栽培漁
業モデル推進事業」に兵庫県栽培漁業協
会も参加したのでお話ししたいと思います。
この事業は昨年に引き続き、今年
も行われたもので、クルマエビの左側尾
扇をハサミで切除し、漁獲物の中から左
右の尾扇の模様の違う放流魚を見つけれ
る事で、拡散範囲と放流効果を判定しよう
というものです。私も兵裁協では放流
魚の育成を行い、六月中旬に(株)日本栽培

漁業協会で生産された全長約二センチの
稚エビを約一ヶ月かけて全長約五センチ
まで育てました。昨年放流した稚エビは
放流後水面を浮遊し、食害魚に捕食され
た経験を反省し、今年には放流後の稚エビ
の潜砂能力向上を目的として水槽の底に
砂を敷いて飼育し、さらに囲い網による
馴致も行いました。結果は、囲い網収容
直後こそ水面を漂う稚エビが見られまし
たが徐々に底につき、砂に潜って目だけ
を出して上手く隠れていました。砂で飼



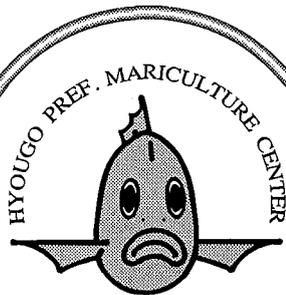
切除後再生した尾扇(左側)

うこと
で放流
後の歩
留まり
が向上
できる
と改め
て実感
しまし
た。今
年も約
二十万

尾の稚エビを赤穂海岸に放流しましたの
で写真のような尾扇をしたクルマエビを
見かけましたら水産試験場へ連絡をお願
いします。

さて各事業場の状況ですが、同じくク
ルマエビを生産している津名事業場では、
七月二十四日に全長十五ミリの稚エビ百
九十万尾を、八月七日に百万尾を配布し
ました。今後順次配布していく予定です。
二見の栽培漁業センターでは、マダイの
中間育成試験が八月四日の放流をもって
終了しました。試験生産魚のオニオコゼ
は継続飼育中で、順調に成長しています。
二見事業場では、ガザミの種苗生産が八
月十二日をもって最後の配布となる予定
です。但馬栽培漁業センターでは、魚類
の今年度の生産は終了し、現在では来年
度の生産に向け親魚を養成中です。六月
から七月にかけて採卵を行っていたサザ
エも採苗を終え一段落し、循環水槽五面
による平板飼育を行っています。

(兵裁協 吉川 孝司)



栽培漁業センターです

120

漁船海難遺児育英会
募金状況(10年7月~)

8月17日

兵庫県漁連会長
小川 守男 様

☆善意をありがとうございました☆

女性 83.82歳

男性 77.19歳

平均寿命です!

男女とも世界最長寿を更新中! (1997年簡易生命表による)



漁業者年金に加入しましょう!

☆長寿社会に余裕をもって生活するために!
☆老後の安心を確保するために!

ぜひ、ご加入ください。

☆既に加入の方も、より良い暮らしのために増額を!

手続き・ご相談は各漁協へ 老齢福祉共済推進兵庫県協議会(事務局・兵庫県漁連 指導課)

TEL・078-652-3444

漁業者年金はあなたのための個人年金です。

海区漁業調整 委員会だより

七月二十八日

第二百三十六回兵庫県瀬戸内海
海区漁業調整委員会及び委員協
議会を南淡町立沼島総合センタ
ーで開催

(委員会議事)

一、兵庫県瀬戸内海海区における区画
漁業の免許について(諮問)

このことについて、審議の結果、
原案どおり免許することに異議がな
い旨答申することに決定した。

(委員協議会議事)

一、漁業と遊漁の調整に関するアンケ
ーについて

七月十五日開催の兵庫県海面利用
協議会で、漁業協同組合に対して、
アンケート調査を実施することが決
定されたこと及び調査の目的、方法
等について、水産課から説明が行わ
れた。

七月二十三日

第三百九十八回但馬海区漁業調
整委員会及び委員協議会を但馬
水産事務所会議室で開催

(委員会議事)

一、但馬海区における定置・区画漁業
の免許について

当該漁業の免許諮問がなされ、審
議の結果、申請どおり免許されて差
し支えない旨答申することを議決し
た。

二、定置漁業の保護区域に係る委員会
指示について

当該指示案について審議がなされ、
原案どおりの委員会指示発動を議決
した。

(委員協議会議事)

三、海面利用協議会の概要について
兵庫県海面利用但馬地区協議会及
び兵庫県海面利用協議会の概要につ
いて報告がなされた。



マダイを元気に 育てるには

私たちが口にする魚はどのような人生(魚生?)を送っているのでしょうか。最近では、私たちになじみ深い魚のほとんどを、人の手で採卵出来るようになりました。但馬でも、人工的な環境で孵化した魚を自然界へ放し、大きくなってから漁獲する栽培漁業が進められています。このような人生を送って、消費者に届く魚が次第に多くなってきています。

魚の王様であるマダイは、その人気の高さから、最も早くから種苗放流が行われてきました。そして、採卵から孵化までの技術はほぼ完成しています。ポイントは、放流してか

ら漁獲されるまでにどれだけ生き残るかです。孵化したてのマダイは、他の魚にとっては栄養満点のエサです。ですから、ある程度マダイが自然界で生き延びられるようになってから放流しないといけません。これが中間育成を行う理由です。これまでの中間育成は、いけすや水槽で行うことが多く、天然のマダイと性格や行動が違うものになりがちでした。そして、これが放流効果を下げている要因の一つであることが判ってきました。

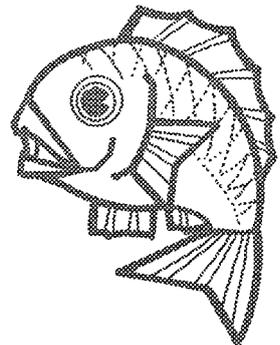
但馬でも、海上いけすで中間育成していましたが、「効果が見えない」という意見が漁業者からでていました。そこで、天然に近い性質のマダイを放流すれば効果が上がるのではと、三年前から地区の栽培漁業推進協議会や青壮年部と協力し、新しい方法を試しています。

浜坂町三尾にある三尾漁港(小三尾湾)の湾口を網で仕切って飼育池として、その中なるべく自然に近い状態でマダイを飼うことにしました。湾内にいたカサゴやメバル、エサにつられて入ってきたマアジなどに食べられたり、湾外へ逃げたりとなかなか思い通りにはなってくれませんでした。しかし、中間育成終了時のマダイは、よく成長し、性質も

天然魚に近いものとなりました。これなら期待できます。後の課題は、このようなマダイを数多く育て放流することと、定量的にどれだけ効果があるのか確かめることです。

この試みは、三尾の漁業者や地区の皆さんの全国的な協力を得て実現できました。ここでは、元気なマダイを育て、放流して漁獲するという栽培漁業の環ができるように思います。魚に注ぐ愛情と誇りがうまくいく秘訣かも知れません。

(但馬水産事務所 大野 泰史)



差別について考える

◆「なかまはずれ」という言葉がある。ここでいう仲間とは、ある特定の集合のことで仲間が無い人もいることになり、この仲間以外の人が「仲間はずれ」である。これは単なる区分であって差別ではない。しかし、ある集まりに当然入って良い人が入れて貰えない時や論理的に納得できない区分をされた時は差別である。区別と差別は混同され易い。「差別」は、正当な理由なく劣ったものとして不当に扱ったり、差をつけて分け隔てる行為のことだ。「区別」は違い

によって分けること、単なる区分けである。◆人が生きていく過程では往々にして差別を受けている。例えば運動会で力を競う競争というのがある。早く走れるものが勝ち、遅いものがビリっかすとなる。これは満座の中で差別を見せつけるものだ。肥満した子を笑い、モタモタ走れば又笑いの渦を呼ぶ。テストをして学業成績を試すのも、差別をつけるための方法である。しかし、これらの差別を履き違えてはいけない。屈辱的な笑いを嘆くより、それを撥ね飛ばす

精神力を養う機会と受け止めることだ。挫けぬための精神を鍛えるチャンスだと強調すべき事なのである。◆子供には遊び仲間があり、気の合った同士が集まって遊ぶ。当然、仲間に入らない子がいる。これが仲間はずれである。これは昔も存在したが、今日という「いじめ」への助長となることは無かった。喧嘩をすれば、力の強いのが勝って負けただ奴が泣き泣かせた側は何らかの制裁を受ける。これが子供の喧嘩だ。現代は喧嘩もさせないでおこうと周りが騒ぎ過ぎるが、子供はもっと喧嘩させるべきである。子供の世界にはそれなりに道徳や掟のようなものが存在する。強い者へは畏敬をもって接し、強い者は弱者を労る気持ちを持つのである。喧嘩の中から生きる知恵を学び規律を身につける。下級生や弱者を理解できるのは、そうした気持ちがあるからこそだと思う。

◆「いじめ」へのプロセスにテレビや漫画の暴力シーンが影響している。何ら抑制のない狂暴な場面が繰り返し映写されたり掲載される。俗悪な絵柄には子供らしさが少なく、暴力による破壊と殺戮の連続が行われ、それが日常茶飯事のようになってしまった。自分が

体験したような錯覚さえ生まれて当然のように思う。それらが暴力に対する気持ちも鈍くし、己の犯す可虐な行為に気づかないのかも知れない。恐怖を覚える。これは恐ろしい洗脳であり「いじめ」を助長しているように思える。「いじめ」は差別の最たるものである。冷酷で野卑な悪童を演じる事で暴力に快感を覚えているようだ。

◆男と女の違いで差別待遇されることもある。男女雇用均等法という平等を看板にした制度も出来て、会社における給与差別も解消されつつあり、待遇面でも改善されている。かつてアメリカでは黒人を差別扱いしていた。皮膚の色の違いで、同じ国民が居住地区まで判然と分割され、買物をするマーケットまで別扱いだった。人道的にも許されぬ近代国家の恥部と言われた。日本でも明治維新までは五十歩百歩の悪習があった。いまだに同和問題として話題になるが、謂れなき差別は根底から解消しなければならぬ。何故こんな差別が生まれたかを、子供に伝えて行くべきか自然消滅のために黙っているべきかと大いに迷うのである。(遊方子)

マリンバイオテクノロジー

第2話

《地球に酸素をもたらしたのは誰か?》

最初の生命は海で誕生しました。その理由は、生命が誕生した頃の地球上には、まだ酸素が無かったためにオゾン層も無く、太陽からの紫外線が直接降り注いでいたため、とても陸地は生物が住める環境ではなかったのです。しかし、最初の生物は酸素を必要としない「バクテリア」でした。その後、周囲の環境に適応していこうとする能力を獲得した生物が現れたのです。

彼らは太陽エネルギーを利用して有機物を合成する、光合成細菌でした。さらに、光合成細菌の中から藍藻類(らんそうるい)が進化し、二酸化炭素を利用して生きて行く、いわゆる植物が誕生しました。この頃の生命体は全て海に存在し、光の届く海中にはどこでも藍藻類が生息していました。こうして光合成をし、酸素を発生する「海洋微細藻類」が増えました。

海洋微細藻類は、彼らが営む光合成によって、また大気中に多量に存在していた二酸化炭素を消費し、代わりに酸素を大気中に放出し長い時間をかけて現在の地球の大気を作り出されていきました。そして、生物の多様な変化が可能になり、動物と植物が分化し、大型の植物や動物が誕生して、さらにはこれらの生物が陸上へと進出していきました。

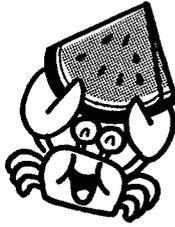
このようにして、地球に酸素がもたらされ私たち人類や様々な生物が誕生しました。また、海洋微細藻類のお陰でオゾン層も出来上がり紫外線から生物を守ってくれています。しかし、最近では二酸化炭素による地球温暖化問題が起きています。彼らが長い時間をかけて作り出した地球の大気を、今私たちは破壊しつつあります。この地球温暖化防止に海洋微細藻類を利用しようとする研究が進められています。今回はこの事についてお話したいと思います。(N)

編集後記

- ★残暑お見舞申し上げます。今年の長雨の影響から農業に悪い結果が出始めている。漁業への影響は如何なものか…。暑さも彼岸すぎまで汗をかくのもあと僅かです。
- ★兵庫県漁協青壮年婦人のつどいが、8月末に開かれたが詳細は次号で特集の予定。川の流れに浸り、流域について考えている。きれいな流れこそ次代に残したい。(遊)

●サンテレビの

こちら海です



「見事ハズレた スイカ割り」



「尾原さん御一家と家島へ出発!!」



「底曳網観光へ…」

【'98年 8月30日放送

第1092回】

ロケだより

満喫!! 家島の夏!! 底曳網観光に夏祭り <兵庫県飾磨郡家島町より>

兵庫県の姫路市と赤穂市の沖合の播磨灘に点在する家島群島。群島と云われるように大小四十余りの島々からなる家島町。四十余りの島々の中で人が住むのは、家島本島・男鹿島・坊勢島・西島の四島だけです。姫路港から凡そ四十分の定期船が島の人々の大事な足。明石海峡大橋の開通で兵庫県には人の住む島、離島と呼ばれるのは、兵庫県の最南端・淡路島南淡町の沼島とこの家島だけになりました。家島は採石業、その石を運ぶ海運業、そして漁業が三大基幹産業です。正しく家島は海に生まれ、海に生き、海に育てられ、海を育てた島なのです。夕日が島影に沈む頃、係留されたヨットのマストが風にかたかた音をたて、シルエットを浮かびあがらせる情景は播磨灘にこんな所が…? 都会からこんな近くにこんなにも自然があるのかと、楽園の表現が相応しい美しさです。今回は、そんな家島で今年三年目を迎えた底曳網観光をメインに取材に入りました。せっかくだからとロケを設定したのは家島神社の勇壮な夏祭り天神祭りの本宮の七月二十五日。一度ゆっくり祭りを見たという念願が叶った日です。家島の夏祭りは宮と真浦の二地区から二隻のだんじり船と呼ばれる船が海上を巡り、船の上の舞台上獅子が雄々しく舞うのがメインです。だんじり船は二隻の船を双胴船のように繋いだ大変珍しい船。その船に祭りののぼりや大漁旗を飾かせ、太鼓・笛の鳴り物を響かせながら湾から湾を巡行するのです。それは聞きしに優る勇壮さです。祭りを堪能、底曳網観光に乗り、底曳網観光は七人迄、四時間で五万円が基本。時間オーバー等も相談に応じて頂ける…。正に

「遊山」中々チヨット警沢を満喫できる趣向です。獲れた魚介類は持ち帰ろうと、食べようと全部参加者のもの。食べたい向きには底曳網観光の船頭さんの奥さん達が全部料理して下さいます。舞台は湾に浮かんだ浮き橋。四方から潮風が吹き抜け、獲れたての魚介類を刺身・天婦羅・煮付け・ハハキユイ・エトセトラ・エトセトラ・エトセトラ…格別な味なのです。料理上手のお母さん達は本当におかろの味でもてなしてくれました。魚の煮汁でそうめんを炊いた素朴な家庭料理。マナガツオの刺身・山と盛り上げられたコブトエビやシャコの塩ゆで…、参加者一同感激に継ぐ感激で、お腹は満腹状態。そして余った魚介類はお土産となったのです。七人で五万円といえは一人七千円程。遊んで、体験して、握え膳…本当にお大尽の気分。今回取材に同行頂いた尾原さん一家。ご主人の健太さんと文子さんは結婚される十八年程前仲間とヨットでこの島々を偶然訪れたことがあったそうです。でもその時と人々も自然も同じで、結婚して子供さんが四人生まれ、長い間の東京暮らしと色々身の回りは変化したのに家島は全然変わって居なかつた…。初めて訪れた時の印象のままで本当に嬉しかったと話して居られました。初めて訪れた長男の大輝君は特に大のお気に入り、夏休みの間に必ずもう一度をお父さんに約束させた程です。リポーターの赤松美香子も次女の三三美香子ちゃん和三女七菜ちゃんからミカチユイと呼ばれ片時も手を離さない仲良し…。ちなみに夜、この二人はミカチユイと並んで寝ました。最高に楽しかった。

1998年9月10日発行 通巻503号
昭和32年10月18日 第3種郵便物認可
発行人 兵庫県漁業協同組合連合会

発行所
兵庫県漁業協同組合連合会
(財)兵庫県水産振興基金

〒652-2211 神戸市兵庫区中之島2-2-1
0844

TEL 652-3444 定価80円 (本体76円)
FAX 671-6685